学校自己評価報告書

（令和７年度）

令和８年９月

学校法人　電波学園

あいちビジネス専門学校　高等課程

学校評価委員会

委　員　長　竹下　啓太（校長）
副委員長　野田　秀樹（教頭）
委　　員　坂野　恭子（事務長）

あいちビジネス専門学校　高等課程

目　次

Ⅰ　学校の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１
Ⅱ　評価の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
Ⅲ　教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
Ⅳ　評価項目の達成及び取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
　（１）教育理念・目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
　（２）学校運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
　（３）教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５
　（４）教育成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６
　（５）生徒指導・生徒支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７
　（６）教育環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ８
　（７）生徒の受入募集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ９
　（８）財務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ10
　（９）法令等の遵守・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ11
　（10）社会貢献・地域貢献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ12
Ⅴ　学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果・・・・・・・・・Ｐ13

あいちビジネス専門学校　高等課程

Ⅰ　学校の現況

（１）学校名

学校法人電波学園　あいちビジネス専門学校　高等課程

（２）所在地

〒４６０－００２６

名古屋市中区伊勢山２－１３－２８

（３）沿革

○１９７９年(昭和５４年)

名古屋市熱田区伝馬町に名古屋ビジネス専門学校開校

○１９８０年(昭和５５年)

名古屋ビジネス専門学校高等課程商業科設置

学校法人　愛知水野学園　東海工業高等学校普通科と技能連携を開始

○１９８５年(昭和６０年)

技能連携先を学校法人　愛知水野学園　三河高等学校商業科に変更

○２００４年(平成１６年)

名古屋ビジネス専門学校をあいちビジネス専門学校に校名変更

商業科を総合ビジネス科に科名変更

○２００５年(平成１７年)

名古屋市中区古渡町に校舎移転

技能連携先を学校法人　愛知産業大学　愛知産業大学三河高等学校普通科に変更

（４）学科の構成

商業実務高等課程　総合ビジネス科

（５）生徒数および教職員数

１学年の定員は１２０名の男女共学。(令和７年５月時点)１２３名の生徒が在籍。教職員は専任７名、講師６名。

（６）施設の概要

１号館　専門課程校舎（高等課程コンピュータ実習室）

２号館　専門課程校舎

３号館　高等課程校舎

Ⅱ　評価の基本方針

学校の裁量が拡大し、自主性・自立性が高まる中で、その教育活動などの成果を検証し、生徒にとってより良い教育活動等が享受できるような支援・改善を行うことにより、学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保証を図ることが重要である。校長が年度始めに掲げた目標に向けて全教職員が一丸となり、その進捗状況や取り組みの適切等について自己点検をし、教育活動を充実させていく。また、授業アンケートを実施するなど生徒側からの意見を取り入れ、教職員一人ひとりの意欲を高め、課題の絞り込みと解決のための組織的取り組みにつなげていく。さらに、保護者の意見も積極的にくみ取り、反映させていくとともに、その活動状況について、わかりやすく的確に開示していく。これによって家庭との相互の理解を深め連携の促進を図る。

Ⅲ　教育目標

本校は昭和５４年４月に開校し、４０年以上の歴史をもつ。学校の理念は開校以来一貫して以下のとおり明確にしている。

１．本学園の【建学の精神】である「社会から喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」を実践する。

２．生徒一人ひとりのニーズを満たすとともに、質の高い資格とスキルをもった良識ある職業人を育成する。

３．安心・安全な学校づくり、生徒が安心して通える学校づくりを実現する。

以上の理念は、全教職員ならびに全生徒に周知しており、学内外に向けてもメッセージとして発信している。入学前の説明会において、【本校の指導方針と考え方】の冊子により生徒・保護者に周知しており、校内の教室には【誓いの言葉】・【学習五訓】・【生徒五訓】を掲示している。

また、育成すべき人材像として「専門知識」、「コミュニケーション能力」、「豊かな人間性」を備えることを掲げている。教員と生徒の距離が近いという校風のうえに、それらを達成するための教育活動をはじめとする各種施策を推進し、「安心・安全・平等な環境で、社会に生きる人格を育む」環境を整えている。

Ⅳ．評価項目の達成及び取組状況

（１）教育理念・目標

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
○理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）	④　3　2　1
○学校における教育の特色は定められているか	④　3　2　1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④　3　2　1
○理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	④　3　2　1
○各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④　3　2　1

① 課題

・専門課程の学科設定に即したコース別授業と内部進学を念頭に置いた進路説明会の実施など、該当分野との明確な関連性を認識してもらう機会は十分に提供できている。また、１学期の保護者会に加えて２学期にも任意で実施していることで、１年生に関しては本人の意向や適性を丁寧に話し合った上でのコース選択ができている。専門課程の魅力を在学期間中の早期に知ってもらい、内部進学を意識し始めるタイミングを現状よりも早める工夫を考えていきたい。

② 今後の改善方策

専門課程体験授業と内部進学の結びつきを強めるため、より効果的な実施回数、実施学年、設定時期などの見直し。

③ 特記事項

・保護者については保護者会、進路説明会、学校公開日の３つの機会を今後も重要視していきたい。

・生徒については日頃の生活の中で育成人材像を周知できている。

（２）学校運営

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	(4) 3 2 1
○事業計画に沿った運営方針が策定されているか	(4) 3 2 1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	(4) 3 2 1
○人事、給与に関する制度は整備されているか	(4) 3 2 1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	(4) 3 2 1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	(4) 3 2 1
○教育活動に関する情報公開が適切になされているか	(4) 3 2 1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 (3) 2 1

① 課題

・互いの業務の情報共有および業務全体の DX 化を更に進めていく必要がある。

② 今後の改善方策

・学園全体で利用しているマイクロソフトの teams によるやり取りなど既存、既成のシステムの通常業務内における使用頻度を高めていく必要がある。また、稟議書など書類の回覧は紙ベースからデジタルへ移行することにより、業務の効率化、迅速化を図りたい。

③ 特記事項

・Instagram による学校行事等の SNS 投稿を随時実行している。教育活動に関する情報公開を適切に行っていくとともに引き続き広報も兼ねて本校の魅力が伝わる発信を試みていく。

（３）教育活動

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	(4) 3 2 1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	(4) 3 2 1
○関連分野の企業・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
○成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
○資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 (3) 2 1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4 (3) 2 1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	(4) 3 2 1

① 課題

・令和７年度入学生より従来の「医療ビジネスコース」を「医療福祉コース」にコース名を変更した。カリキュラムも一部見直しを行った。2年次からのコース別授業実施に向け、関連科目担当教員の整備を進めていかなければならない。

② 今後の改善方策

・専門課程への内部進学を前提として教育活動を展開しているが、情報系・医療福祉系それぞれの魅力を授業を中心に生徒へ伝えていく。

③　特記事項

・引き続き専門課程進学の有用性と高等課程における学習環境の整備および在学生の学校生活における満足度を高めていきたい。

（４）教育成果

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１
○就職率の向上が図られているか	(4)　3　2　1
○資格取得の向上が図られているか	(4)　3　2　1
○退学率の低減が図られているか	(4)　3　2　1
○卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4　(3)　2　1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4　(3)　2　1

① 課題

・就職希望者の就職率は連続して 100%を維持できている。今後はより生徒の希望に沿った内定につなげていきたい。次年度以降も引き続き就職希望者の全員内定を目標とするとともに卒業後の定着など状況把握に努めなければならない。

② 今後の改善方策

・就職者の卒業後 3 年間の定着状況の把握など、企業との連携強化を図る。

③ 特記事項

・令和 7 年度 1 年生は退学者が出ることなく全員が進級。令和 6 年度に引き続き 2 年連続で 1 年生は全員が進級することができた。

（５）生徒指導・生徒支援

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１
○基本的生活習慣の確立のために取り組んでいるか	(4) 3 2 1
○進学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	(4) 3 2 1
○生徒・保護者からの相談体制が組まれているか	(4) 3 2 1
○生徒の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
○生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1
○保護者と適切に連携しているか	(4) 3 2 1
○クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか	4 (3) 2 1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
○卒業生への支援体制はあるか	4 (3) 2 1

① 課題

・基本的生活習慣の確立については、精神面における不安感や心配、登校が難しい生徒が多いことから統一したアプローチによる実現は現状難しい。

・クラブ活動については、学校外へ向けた具体的成果として評価できる取り組みが少ないことから奨励、支援しているとはいえない。

② 今後の改善方策

・オンライン授業、リモート授業など段階的な措置を経て最終的に通常登校できるという理想の計画を共有する必要がある。

・保健衛生委員会の中で実際に想定し得る事象を検討し対処方法をマニュアル化することが望ましいと思われる。

③ 特記事項

・経済的支援については、本学園として入学時や在籍中の奨学金や、学園内部進学時においては減免制度を設け、支援体制を整えている。

（６）教育環境

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4　(3)　2　1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4　(3)　2　1
○防災に対する体制は整備されているか	(4)　3　2　1

① 課題

・インターンシップや海外研修等の教育体制はないが、令和７年度も職場体験を兼ねて社会研修を実施した。外部の人と接する機会を設定することで生徒の今後の対人コミュニケーションにおける意識の活性化を図る意図で実施した。実施後の変化、成果を見ていきたい。

② 今後の改善方策

・実施した職場体験を兼ねた社会研修をきっかけに、この他にも学外での活動も検討していく必要がある。

③　特記事項

・毎年５月と９月の年２回の避難訓練を実施している（５月は地震を,９月は火災を想定）。
・在校生分の災害用備蓄品を整備できている。

（７）生徒の受入募集

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
○生徒募集活動は、適正に行われているか	(4)　3　2　1
○生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4)　3　2　1
○学納金は妥当なものとなっているか	(4)　3　2　1

① 課題

・一度オープンスクールに参加した中学生と保護者が再度来校し、進路の選択肢として具体的に検討したいと思えることが理想であるため、複数回本校に足を運びやすいようにオープンスクールを夏・秋・冬と内容を変更しながら実施。次年度以降も内容をより魅力的なものに仕上げる必要がある。

② 今後の改善方策

・本校のコース設定に即した内容の中で、より印象的で楽しく参加できるプログラムの見直しをしていきたい。

③　特記事項

・学納金については同種他校と大差なく適正といえる。

（８）財務

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	(4)　3　2　1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4)　3　2　1
○財務について会計監査が適正に行われているか	(4)　3　2　1
○財務情報公開の体制整備はできているか	(4)　3　2　1

① 課題

・財務基盤を判断するための目安である繰越収支差額は、昨年度に続き学園ではプラス数値である。

② 今後の改善方策

・より魅力ある学校作り（施設・設備の充実など）に力を入れ、さらに生徒数増加に繋げたい。

③　特記事項

・財務基盤は、安定している。

（９）法令等の遵守

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4)　3　2　1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	(4)　3　2　1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	(4)　3　2　1
○自己評価結果を公開しているか	(4)　3　2　1

① 課題

・自己評価をもとに出てきた改善点に関して、例年同様に少しずつ改善している。

② 今後の改善方策

・分掌問わず業務が多重になっているため、各個人の職務として認識することが望ましいが、そうした状況認識の統一をより図って現場職員で互いに密接にやりとりをしていく必要がある。

③ 特記事項

・生徒の写真などの掲載の可否は、例年通り入学段階で承諾書に記入する形で提出してもらっている。特にパンフレット、ホームページなどで掲載される生徒については再度生徒、保護者へ確認し承諾を得ている。Instagram が定着しつつあることから、積極的に掲載に応じてくれるように生徒の学校生活の満足度を高めていきたい。

（10）社会貢献・地域貢献

評　価　項　目	適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１
○学校に教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4　(3)　2　1
○生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	(4)　3　2　1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4　(3)　2　1

① 課題

・校外清掃などで微力ながら周辺の環境整備に貢献している。

・本校在学生の気質に合い尚且つ精神的側面における成長が期待できる教育活動として地域との関わりは切り離さずに検討すべき要素ではあるが、現状の教育活動はその段階にない。

② 今後の改善方策

・生徒の在学中における学校間の交流や企業、社会との関わりという点ではその機会に乏しいため、まず学園内姉妹校など本校以外の場での繋がりを大事な機会と捉え一つ一つ積み重ねていく必要がある。

③ 特記事項

・令和３年度より、中学校向けの無料講座をスタートし継続して実施している。

Ⅴ　学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

Ⅰ～Ⅳの各項目の評価を通して全体を振り返ると法令遵守のもと適切に学校運営がなされたと判断できる。令和7年度新入生は退学者が出ることなく、前年度に引き続き全員進級している。

令和8年度からは新中期計画をスタートする予定。本校のビジョンは「感じの良い人材があふれる社会を創る」ことである。具体的には、

・挨拶、笑顔、思いやりを大切にできる
・得意分野を活かし、一人ひとりが主役になれる
・社会に出て「一緒に働きたい」と思われる人材

それらを輩出する学校を目指していきたい。